



一般社団法人日本解剖学会

2024（令和6）年度
定時社員総会

資料

日 時：2024（令和6）年 3月22日（金）
13:20～14:20

会 場：那覇文化芸術劇場なは一と
大劇場（A会場）

2024（令和6）年度定時社員総会
議 題

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況
2. 物故会員
3. 教授就任による新代議員
4. 理事欠員補充について
5. 解剖学教育に関するアンケート調査について
6. ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケートについて
7. その他

IV. 審議事項

1. 新名誉会員の件
2. 新永年会員の件
3. 申請による新代議員の件
4. 2023（令和5）年度事業および業務監査報告の件
 - ①学術集会開催状況
 - ②会議開催状況
 - ③学会誌の刊行状況
 - 1) 編集委員会
 - 2) A S I 編集委員会
 - ④委員会報告
 - 1) 認定解剖組織技術者資格審査委員会
 - 2) 解剖体委員会
 - 3) 解剖学用語委員会
 - 4) 海外交流委員会
 - 5) 教育委員会
 - 6) 若手育成委員会
 - 7) アウトリーチ委員会
 - 8) 学術委員会
 - 9) 医療専門職教育委員会
 - 10) 倫理・利益相反委員会
 - 11) ダイバーシティ推進委員会
 - 12) 若手研究者の会
 - ⑤研究の奨励および業績の奨励
 - ⑥内外学術団体との協力ならびに連絡
 - ⑦技術者認定
5. 2023（令和5）年度決算および会計監査報告の件
6. 2024（令和6）年度予算および事業計画の件
7. 2025（令和7）年度予算執行の件
8. 第132回（2027（令和9）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件
9. 役員選出会則の一部改正について
10. その他

V. 第130回（2025（令和7）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞

開会の辞

議長選出

I. 議事録署名人の選任

II. 理事長報告

III. 報告事項

1. 会員状況：2023（令和5）年12月31日現在

正会員 1, 831名 永年会員 178名 団体会員 39名
名誉会員 35名 賛助会員 19名 寄贈会員 24名
※ほか、休会中の会員 8名

2. 物故会員

氏 名	逝去日	会員種別	備 考
ふじもと すなお 藤本 淳	R 4. 12. 25	永年会員	産業医科大学・名誉教授
せりざわ まさお 芹澤 雅夫	R 5. 2. 19	永年会員	獨協医科大学・名誉教授
なかの かつま 中野 勝磨	R 5. 5. 23	永年会員	三重大学・名誉教授
か ち たかし 加地 隆	R 5. 5. 26	永年会員	弘前大学・名誉教授
やまだ えいち 山田 英智	R 5. 6. 16	名誉会員	東京大学・名誉教授
あおやま ひろひこ 青山 裕彦	R 5. 6. 27	永年会員	広島大学・名誉教授
さ の ゆたか 佐野 豊	R 5. 7. 23	名誉会員	京都府立医科大学・名誉教授
さかもとゆうじろう 坂本裕次郎	R 5. 8. 5	正 会 員	東京医科歯科大学大学院医歯学総合
くりすこうじろう 栗栖浩二郎	R 5. 9. 23	永年会員	大阪大学・名誉教授
たかはし あきら 高橋 暁	R 6. 2. 17	名誉会員	福井大学・元教授

3. 教授就任による新代議員

氏 名	教授就任日	所 属
ながいし かんな 永石 歓和	R 5. 6. 1	札幌医大・解剖 2
いのうえ こういち 井上 浩一	R 5. 8. 1	奈良医大・解剖 1
たかわら けいこ 高村 敬子	R 5. 10. 1	長崎大・医・肉眼解剖学
あまの か お り 天野カオリ	R 5. 12. 1	神奈川歯大・解剖学
てらい けんた 寺井 健太	R 5. 12. 1	徳島大・顕微解剖学

4. 理事欠員補充について

中部支部選出の木山博資理事、ならびに中国・四国支部選出の篠田 晃理事より、令和6（2024）年3月31日付での理事退任の申出がなされた。

定款第23条2項「任期満了前に退任した理事の補欠として、または増員により選任された理事の任期は、前任者または他の在任理事の任期の残存期間と同一とする。」、ならびに役員選出細則第5条「理事及び監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。」各規定により、中部支部：宮田卓樹代議員、ならびに中国・四国支部：海藤俊行代議員が令和6（2024）年4月1日で理事就任予定である。任期は木山博資理事、ならびに篠田 晃理事の残り任期となり、就任期間は2025（令和7）年度定時社員総会終結時までとなる。

2022（令和4）年11月10日

一般社団法人日本解剖学会 次期代議員 各位

一般社団法人日本解剖学会 選挙管理委員会
委員長 市村浩一郎
委員 秋田 恵一
伊藤 正裕
長瀬 美樹

謹啓

時下益々御清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、11月10日に選挙管理委員会を、一般財団法人口腔保健協会にて開催し、過日行われました日本解剖学会2023・2024（令和5・6）年度役員選出選挙の開票を行いました。以下の開票結果につきましては直ちに理事長に報告書を提出致しました。

以上、御報告申し上げます。

敬具

－記－

投票結果 有権者数 287名、投票総数 204通（71.08%）
有効通数 204通、無効通数 0通

【注釈】海藤先生は開票時点で理事候補者として当選していたが、一身上の事由により理事就任を辞退しており、篠田先生が繰上当選となった経緯がある

監事開票結果（敬称略） 有効通数204通、投票総数204通のうち 有効票数563票、無効票数0票
理事開票結果（敬称略） 有効通数204通、投票総数204通のうち 有効票数339票、無効票数0票

監事（定員2名）

★ 1. 八木沼洋行 31 票
★ 理事優先 （岡部繁男 17 票）
★ 2. 渡辺雅彦 16 票
★ 理事優先 （木山博資 13 票）
★ 理事優先 （大和田祐二 9 票）
次点 天野 修 8 票

理事

北海道支部（定員1名）

★ 1. 吉田成孝 5 票
次点 網塚憲生 3 票

東北支部（定員1名）

★ 1. 大和田祐二 14 票
次点 八木沼洋行 3 票

関東支部（定員5名）

★ 1. 岡部繁男 28 票
★ 2. 仲嶋一範 21 票
※ 3. 野田泰子 19 票
※ 4. 阪上洋行 19 票
★ 5. 寺田純雄 17 票
次点 天野 修 16 票

中部支部（定員3名）

★ 1. 木山博資 15 票
※ 2. 千田隆夫 11 票
※ 3. 尾崎紀之 11 票
※ 次点 宮田卓樹 5 票
※ 次々点 飯野 哲 5 票

近畿支部（定員3名）

★ 1. 島田昌一 12 票
★ 2. 佐藤 真 9 票
★ 3. 和中明生 8 票
※ 次点 萩原正敏 5 票
※ 次々点 八木秀司 5 票

中国・四国支部（定員2名）

★ 1. 海藤俊行 9 票
※ 2. 篠田 晃 6 票
※ 次点 大内淑代 6 票

九州支部（定員2名）

★ 1. 福田孝一 11 票
★ 2. 菱川善隆 8 票
次点 森本景之 3 票

※「役員選出細則」第4条（5）により、得票数が同数の者の中から当選人を決定する場合には、年長の者を優先します（理事選挙：関東、中部、近畿ならびに中国・四国の各支部が該当）

★ 監事につきましては、「まず理事を決定し、次に監事を決定する」と役員選出細則第4条（4）に規定されておりますので、岡部・木山・大和田先生は理事への就任が優先されます。

以上

5. 解剖学教育に関するアンケート調査について

教育委員会が主体となって、2023（令和5）年2月から3月にかけて、解剖学教育に関するアンケート調査を実施した。同年6月7日に学会ホームページ内「会員専用ページ」に分析結果の速報を掲載した。詳細な結果を解剖学雑誌にて公開予定である。

6. ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケートについて

倫理/利益相反委員会が主体となって、2024（令和6）年9月から10月にかけて、ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケートを実施した。集計結果を解剖学雑誌にて公開予定である。

【審議事項】

1. 新名誉会員の件

氏 名	経 歴 等	備 考
さとう よういち 佐藤 洋一	第115回会頭／岩手医科大学	名誉会員推薦規約（2）
ふじくら よしひさ 藤倉 義久	第113回会頭／大分大学	名誉会員推薦規約（2）

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会名誉会員・永年会員推薦規程

第2条 理事長は理事会の推薦に基づき、社員総会の議を経て、以下の者に名誉会員の称号を贈ることができる。

- （1）解剖学の進歩と発展に著しい功績があったと認められる者。
- （2）永年会員の称号を贈られたのち5年以上の経歴を有し、理事長、総会・全国学術集会会頭、または、国際解剖学会会長を経験した者。

2. 新永年会員の件

氏 名	所 属（職名は申請時点）	備 考
あきもと よしひろ 秋元 義弘	杏林大・医・顕微解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
おざわ ひとし 小澤 一史	佛教大・保健医療技術（教授）	永年会員推薦規約（1）
きやま ひろし 木山 博資	名古屋大・医・機能組織学（解剖2）（教授）	永年会員推薦規約（1）
さきの やすゆき 笹野 泰之	東北大・歯・顎口腔組織発生学（教授）	永年会員推薦規約（1）
さとう ふみ 佐藤 二美	東邦大・医・解剖学・生体構造学（教授）	永年会員推薦規約（1）
しのだ あきら 篠田 晃	山口大・医・神経解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）
すざき えつこ 洲崎 悦子	就実大・薬・人体構成学（教授）	永年会員推薦規約（1）
たかみ しげる 高見 茂	酒井電子顕微鏡応用研究所（上級研究員）	永年会員推薦規約（1）
ひとみ じろう 人見 次郎	岩手医大・医・解剖学・人体発生学（教授）	永年会員推薦規約（1）
はた りゅうじ 秦 龍二	藤田医大・解剖1（教授）	永年会員推薦規約（1）
ふじた けいこ 藤田 恵子	埼玉医大・解剖学（教授）	永年会員推薦規約（1）

（五十音順）

一般社団法人日本解剖学会名誉会員・永年会員推薦規程

第4条 理事長は理事会の推薦に基づき、社員総会の議を経て、以下の者に永年会員の称号を贈ることができる。

- （1）代議員として10年以上の経歴を有し、終身会費を納入した65歳以上の正会員。
- （2）前項の規定に関わらず、本学会の発展のために永年の功労があったと認められる正会員。

3. 申請による新代議員の件

氏 名	所 属 等 (申請時)	入会年	推薦代議員
かわしま ともかず 川島 友和	東邦大・医・解剖学・生体構造学 (准教授)	2008	佐藤 二美
さかもと ひろたか 坂本 浩隆	岡山大・理・神経制御学・神経行動 (教授)	2014	小澤 一史
なりた けいし 成田 啓之	岩手医大・医・解剖学・細胞生物学 (准教授)	1998	齋野 朝幸
よこやま たくや 横山 拓矢	岩手大・農・獣医解剖学 (准教授)	2006	山本 欣郎

(五十音順)

一般社団法人日本解剖学会代議員選出規程申し合わせ

当分の間、被選挙権者については下記のとおりとする。

- (1) 医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である正会員とする。但し、代議員が解剖学以外の教育・研究職等に転じた場合でも、代議員の資格が継続され、被選挙権も有するものとする。
- (2) 正会員として通算10年以上の経歴を有し、解剖学の教育・研究について、前号の者と同等以上の寄与をなしていると社員総会にて承認された者。
- (3) 65歳を超えて医学または歯学の大学等の解剖学教育・研究担当専任教授である場合は被選挙権を有する。
- (4) 欠員が生じている場合に限り、(1)の申請を行った正会員は常務理事会の決議を経て、社員総会へ報告、(2)の申請を行った正会員については理事会での決議を経て、社員総会に諮るものとする。

4. 2023 (令和5) 年度事業および業務監査報告の件

①学術集会開催状況

全国学術集会	会 頭	開催期日	会 場
第128回全国学術集会	大和田祐二 (東北大・医・器官解剖学)	3月18日～20日	東北大学川内北キャンパス、仙台国際センター

支部学術集会	大会長	開催期日	会 場
第69回東北・北海道支部連合	上条桂樹 (東北医薬大・解剖学)	9月2日～3日	東北医科薬科大学福室キャンパス
第111回関東支部	竹林浩秀 (新潟大・医・脳機能形態学)	9月3日	新潟大学
第83回中部支部	内藤宗和 (愛知医大・解剖学)	10月7日～8日	愛知医科大学
第99回近畿支部	中務真人 (京都大・理・自然人類学)	11月18日	京都大学理学研究科セミナーハウス
第77回中国・四国支部	海藤俊行 (鳥取大・医・解剖学)	10月14日～15日	鳥取大学米子キャンパス
第79回九州支部	東 華岳 (産業医大・解剖1)	11月11日	産業医科大学

②会議開催状況

会議名	開催期日	会 場	会議名	開催期日	会 場
常務理事会			理事会		
第1回	1月21日	A P 新橋	第1回	1月21日	A P 新橋
第2回	3月17日	東北大学川内北キャンパス	第2回	3月17日	東北大学川内北キャンパス
第3回	3月18日	東北大学川内北キャンパス	第3回	3月18日	東北大学川内北キャンパス
第4回	6月24日	口腔保健協会	第4回	3月18日	東北大学川内北キャンパス
第5回	9月16日	口腔保健協会	第5回	12月16日	A P 新橋
第6回	12月16日	A P 新橋			
定時社員総会	3月18日	東北大学川内北キャンパス			

③学会誌の刊行状況

2023（令和5）年度編集委員会活動報告書

編集委員会
委員長 福田孝一

1. Anatomical Science International (ASI)編集・発刊報告

別記の如く予定通り刊行された（竹田 扇 委員長）

2. 解剖学雑誌 編集・発刊報告

1) 予定通り以下のごとく刊行された。

a)掲載論文数内訳

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
98巻1号	10	0	0	2	0	0	22
98巻2号	12	1	11	1	0	0	25

b)頁数総計

巻号	特集	寄書	新任教授紹介	追悼文	奨励賞受賞者紹介	その他	計
98巻1号	36	0	0	2	0	0	38
98巻2号	38	2	11	1	0	0	52

※支部学術集会抄録の掲載は学会ホームページに移行済み。

※その他：巻頭言

2) 各号の企画についてメール会議・オンライン会議を中心に議論を行った。

3. 学会ホームページ一般向けコンテンツ「解剖学ひろば」対応について

2022年度奨励賞受賞者紹介は解剖学雑誌掲載後、受賞者あて掲載打診を行う予定である。

以上

2023（令和5）年度A S I 編集委員会活動報告書

A S I 編集委員会
委員長 竹田 扇

2023年度のASI編集委員会の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

1. 総括

2023年度は特に大きな動きはなく編集委員会は対面1回を含む計4回開催された。また本年度も計画通りに98巻1から4号を発行することができたが、年間投稿数は265と昨年の280より5%程度減少した。その原因は日本からの投稿の減少が大きいと思われる。日本人の投稿数は2019年度、2020年度、2021年度、2022年度、2023年度がそれぞれ36、40、32、31、20であった。さらに会員への投稿を一層呼び掛けていく必要がある。

一方で2022年のインパクトファクターは1.2と前年（1.741）と大幅に低下した。特集は98(3)として無事刊行されたが、投稿数が予定よりも減少したため独立した号とはせずSpecial Collectionとして一般投稿と同じ号で刊行した。現在次年度特集号の”Convergence and Divergence of Anatomical Terminology”の編集を行なっている。

2. 出版実績

2023年度の出版：98巻第1号から98巻第4号までの4冊 [4冊]、頁数：617頁 [431頁]、論文数：60 [46]
内訳は下表、[] 内は前年値 [2024年の1月15日までの予定はJanuary issue 合計15編、150ページ]

出版した論文数（カテゴリー毎）								
	Editorial	Commentary	Review article	Original article	Case report	Method paper	Letter to the Editor	計
98-1	0	0	2	11	2	1	0	16
98-2	0	0	0	13	0	0	0	13
98-3	1	1	7	6	0	1	0	16
98-4	1	0	1	11	2	0	0	15

3. 投稿論文数

投稿論文数は減少している。2023年度の総投稿論文数、カテゴリー毎の投稿数、受理数は下表の通りである。

カテゴリー	カテゴリー毎の投稿数、受理数（2023年1月1日～12月31日）						
	Original Article	Review Article	Case Report	Letter to the Editor	Method Paper	Commentary	計
全投稿数	175	34	44	8	2	2	265
受理	16	12	4	0	0	0	32
査読中、改訂中	17	7	6	1	1	0	32
リジェクト、取下げ	142	15	34	7	1	2	201

4. 過去10年間の被検索ダウンロード数

過去10年間、下表のように推移している。2023年のFull-textダウンロード数は、154,160件であった。Full-textダウンロード数は昨年度比で34%増、2020年度比で220%増と大きく伸びている。

Service	2013 Total	2014 Total	2015 Total	2016 Total	2017 Total	2018 Total	2019 Total	2020 Total	2021 Total	2022 Total	2023 Total
Abstracts	*1	*1	29,733	20,407	11,459	27,466	82,550	109,791	81,589	85,901	101,489
Full-text Download	17,577	16,589	21,741	41,865	45,518	44,129	52,171	70,391	92,611	114,946	154,160

*1 2013-2014年はデータ欠損。

5. Impact Factor

ASIには2007年よりIFが付与された。その後、上昇、下降を経験し発展している。

	2007	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
IF	1.161	0.827	0.861	0.961	1.330	1.566	1.512	1.741	1.693	1.2

6. 分析

2023年の総投稿数は265編と、2022年の280編から減少しており、会員への一層の投稿呼びかけ、特集以外の依頼論文等、対策が必要である。採択数は32報であり、前年からの採択分を加えて60報（2022年度比30%増）、617ページ（2022年度比43%増）となった。

7. 解剖学会奨励賞関係

2023年度受賞者は3名であるが、このうち一名は未発表データがあるため刊行後の総説執筆となる。残り2名の論文タイトルは以下の通りであり、99 (3) に掲載の予定である。2022年度受賞者4名の論文は全て掲載済みである。一方、2021年度の受賞者1名が未執筆であり、奨励賞選考委員会からも改めてreminderが送られている。また奨励賞論文の執筆要項に関して選考委員会委員長、理事長と相談の上改訂を行い、同時に注意喚起のためのEditorialを98 (4) 号に掲載した。

- ① Mutsumi Yokota: Analysis of dopaminergic neuron-specific mitochondrial morphology and function using tyrosine hydroxylase reporter iPSC lines
- ② Taro Koike: Structure and function of glial cells around primary sensory neurons

8. Editorial Boardの更新

荒川高光委員が多忙のため委員を退任した。これに伴い、大島勇人委員（新潟大）、池上浩司委員（広島大）がメンバーに加わった。またAdvisory Boardは国内外合わせて40名以内という規程を新たに設け、Niels Hammer 教授（Graz大学）、Shane Tubbs 教授（Tulane大学）を新規メンバーとして承認した。現在定員が充足している。

9. 謝辞

2023年の投稿数は265本、採択数は32本、査読・改訂中32本でした。2022年度は投稿数280本、採択数36本、査読・改訂中が34本でしたので、採択された論文数は減少しました。今年度もASI刊行のためにご尽力を賜りました多くの方々に、深甚なる謝意を申し上げます。

以上

④委員会報告

2023（令和5）年度認定解剖組織技術者資格審査委員会活動報告書

認定解剖組織技術者資格審査委員会
委員長 八月朔日 泰和

2023（令和5）年度の活動状況について、下記の通りご報告申し上げます。

認定一級解剖技術者

有村 和人（愛知医科大学解剖学講座）
窪 和寛（福岡歯科大学教育研究支援課）
中田 貴之（金沢医科大学アナトミーセンター）

認定二級解剖技術者

浅野 文子（名古屋大学大学院医学系研究科機能組織学）
入江 理恵（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座形態科学分野）
小酒井 友（東北医科薬科大学医学部技術室）
小杉 真登（日本歯科大学新潟生命歯学部解剖学第1講座）
陶山 愛美（東北医科薬科大学医学部技術室）
平田 潤（山梨大学医学部医学科解剖学講座構造生物学教室兼CSTセンター）
福田 京祐（群馬大学大学院医学系研究科機能形態学）

認定二級細胞組織技術者

尾之内高慶（藤田医科大学研究推進本部オープンファシリティセンター）
小酒井 友（東北医科薬科大学医学部技術室）
陶山 愛美（東北医科薬科大学医学部技術室）

2. その他

試験問題の公開を前提とした問題作成方針の検討（選択・記述問題のバランスの検討や記述問題の採点基準の作成など）を進めていく予定である。また、技術職員の交流・技術向上を目的とした解剖・組織技術研究会と連携し、認定解剖組織技術者資格が技術職員のキャリアとして認識されるための方策について検討を行う。

以上

2023（令和5）年度解剖体委員会活動報告書

解剖体委員会
委員長 岩崎 広英

1. 第128回全国学術集会において、遺体を用いた外科手技研修（cadaver surgical training）に関するシンポジウム「CST実施におけるボトルネックの解消法を探るPart5」を開催した。
2. 第129回全国学術集会において、第128回に引き続き、遺体を用いた外科手技研修（cadaver surgical training）に関するシンポジウム「CST実施におけるボトルネックの解消法を探るPart6」を企画した。

以上

2023（令和5）年度解剖学用語委員会活動報告書

解剖学用語委員会
委員長 坂井 建雄

解剖学用語は医学用語の根幹をなすものであり、本委員会では日本医学会や一般から日本解剖学会へ用語について質問や要望があった場合に、必要に応じて対応・回答している。また現在の医学（教育、研究、診療）における解剖学用語の役割やあり方について理解を深めるための意見交換を行っている。

1) TA2 (terminologia anatomica) について

現在の『解剖学用語第13版』の語彙は、International Federation of Associations of Anatomists (IFAA) が1998年に刊行したTA (terminologia anatomica) に対応している。2019年にTA2が発表されたが、IFAAはまだ正式な承認をしていない。TA2のラテン語表記のあり方について、国際的なコンセンサスがない状況にあることから、TA2に合わせた日本語『解剖学用語』の改訂についても様子を見たい。

2) Anatomical Science International (ASI) の解剖学用語の特集について

竹田扇編集委員長が中心となり進めているASIの解剖学用語特集の企画について、坂井用語委員長が編集・投稿に協力すること、必要に応じて各用語委員が論文査読に協力することになった。

3) 生物教育用語調査

高等学校での生物学教育で使われる語彙については、医学用語・解剖学用語との間に若干のずれがあり、医学部や医療系の学部において学生が基礎医学・臨床医学を学習するにあたって一部に混乱や戸惑いを生じている。

生物科学学会連合（生科連）から、高等学校の生物教育における教育用語集の作成にあたって、用語要望調査の依頼が日本解剖学会にあった。用語委員会において検討を行い、一部の用語について修正・追加・削除の提案を行った。

4) 第129回日本解剖学会全国学術総会の用語のシンポジウムについて

ASI編集委員会（竹田扇委員長）と用語委員会との共催で、指定シンポジウム2：解剖学用語&ASI「解剖学用語の過去、現在、未来」を開催する（2024/3/31、9時～）。

本委員会が編集した『解剖学用語 改訂13版』が2007年3月1日に医学書院から発行された。本用語集に採用された新しい解剖学用語は、解剖学の教科書などに広く採用されており、用語の標準化に大きな役割を果たしたといえる。しかし発刊から15年を経て、用語集の販売部数はなお伸びていないのが現状である。

以上

2023（令和5）年度海外交流委員会活動報告書

海外交流委員会
委員長 久保田義顕

1) 韓国解剖学会（KAA）への会員派遣

2023年度は日本解剖学会（JAA）よりKAAへの派遣年であった。

第73回大韓解剖学会学術大会内で第4回日韓解剖学会国際合同シンポジウム開催を行った。JAAから以下2名の会員を派遣した。

小山佳久 先生（大阪大学大学院医学系研究科神経細胞生物学講座）

岩永 譲 先生（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔顎顔面解剖学分野）

2) JAAへの招聘

2024年度はJAAへの招聘年である。第129回全国学術集会で第5回日韓解剖学会国際合同シンポジウムを実施する。

3月21日（木）14:40-16:25（105分）B会場（なは一と小劇場）

JAA演者

大野伸彦 先生（自治医大・解剖学講座組織学） Organella dynamics

横溝智雅 先生（東京女子医大・顕微解剖学・形態形成学） hematopoietic stem cell

今崎 剛 先生（神戸大・医・生体構造解剖学） Cryo EM

KAA演者

In-Beom Kim先生 (Department of Anatomy, College of Medicine, The Catholic University of Korea)

Nano-scale Connectomic Analysis of Retinal Ribbon Synapses

Woong Sun先生 (Department of Anatomy, Korea University College of Medicine, Seoul, Korea)

Neural Organoids for drug development

Han-Sung Jung先生 (Division in Anatomy and Developmental Biology, Department of Oral Biology, Taste

Research Center, Oral Science Research Center, BK21 FOUR Project, Yonsei University College of Dentistry, Seoul, South Korea.)

Epithelial plasticity enhances regeneration of committed taste receptor cells

3) JAA-KAA交流協定の補遺締結

2019年にKAAとの交流協定書を締結したが、詳細な費用負担記載がないため、補遺締結を協議している。

2023 (令和5) 年度教育委員会活動報告書

日本解剖学会教育委員会

市村浩一郎、飯野 哲、城戸瑞穂、辰巳晃子、寺山隆司

古田貴寛、山崎美和子、八木秀司、吉田成孝 (委員長)

(1) 教育に関するアンケート調査の実施

2022年に委員長から発議されたアンケートの企画について2023年1月17日の教育委員会 (Zoom開催) により協議され、アンケート実施案が決定された。これをもとに常務理事会の承認を経て、2023年2月20日から3月10日までの回答期間としてアンケート調査が行われた。その後3月17日回答分までを有効回答として集計に用いた。集計は委員長を中心に行い、5月29日に学会事務局宛てに提出した。常務理事会の承認を経て6月7日に学会Webページ上に会員限定で掲載された。

(2) 第128回全国学術集会におけるシンポジウムの実施

第128回全国学術集会において、教育委員会企画シンポジウムとしてSB4「解剖学教育の様々な問題に向き合う」を開催した。高山先生 (琉球大) からTBLなどの手法を用いた統合的組織実習に関する発表、西先生 (奈良医大) からはご自身の経験をもとに解剖学者としてのキャリア形成についての発表を頂いた。医学教育の専門家の立場から鈴木先生 (兵庫医大) から基礎研究医育成のための提言を、長谷川先生 (秋田大) から新モデル・コア・カリキュラムで望まれる解剖学教育についてお話しいただいた。

(3) 委員会の開催

- ・1月17日にZoomにより委員会を開催した。議題は「教育アンケートについて」の1議題であった。委員長提案のアンケート案を修正してアンケート調査を行うことが議決された。
- ・3月19日に東北大学川内北キャンパス講義棟C棟C305教室で委員会を開催した。議題は以下の3議題であった。

- (1) 新年度の活動計画 次回の学術総会における委員会主導の企画シンポジウムについてシンポジウムを企画することが議決された。シンポジウムの内容については継続して審議することとなった。
 - (2) アンケートの集計について 詳細な結果は学会WEBページへの掲載と解剖学雑誌への寄稿により公表することとした。
 - (3) 若手育成委員会との協働について 今後、若手育成委員会との委員会共同開催など、連携を深めていくことが確認された。
- ・企画シンポジウム、アンケート調査などに関して随時メールでの審議を行った。

(4) 第129回全国学術集会におけるシンポジウムの企画

「実習の様々なあり方を考える」というテーマで5月30日に第129回全国学術集会の企画シンポジウムに応募し、採択された。演者として沖縄大学の盛口氏と学会員から3名を選定した。

(5) 第130回全国学術集会（APPW2025）での教育プログラムに関する企画

3学会合同での教育プログラムに関する企画について、大会プログラム委員から協力の要請があった。教育委員会として協力すること、山崎委員が窓口として対応することを決定した。

今後の活動予定

2024年始めに解剖学教育の現状に関するアンケート調査結果について解剖学雑誌に投稿する。また、3月のシンポジウムを実施することが当面の活動予定である。

2023（令和5）年度若手育成委員会活動報告書

若手育成委員会
委員長 池上 浩司

(1) 委員会の開催

2022年3月18日に東北大学川内キャンパスにおいて委員会を開催し以下の議論を行った。

- 1) 終身会費を原資とした新たな若手支援策に関する議論を行い、肉眼解剖学実習経験のない新任教員による実習手技トレーニングに対する経済支援や、若手研究者の会が数年に1回の頻度で開催する大きな集会への支援などの提案をとりまとめた。
- 2) 若手研究者の会が実施したアンケートにおいて肉眼解剖学教育のノウハウに関する要望が多いことを鑑み、教育委員会と若手育成委員会の合同開催に関する提案をとりまとめた。
- 3) 次世代人材を解剖学の世界にリクルートすることを企図し、全国の基礎医学研究者育成プログラムの現状調査、臨床から解剖学に入った事例に関する情報収集、学会参加学部生へのそれらの情報の共有などについて方針をとりまとめた。

(2) 第129回日本解剖学会総会・全国学術集会におけるシンポジウムの企画

若手研究者の会が実施したアンケートの結果を踏まえ「Early careerからmiddle careerでの国際共同研究展開やグラント獲得のノウハウ」というシンポジウムを若手研究者の会と合同で企画した。

以上

2023（令和5）年度アウトリーチ委員会活動報告書

アウトリーチ委員会
委員長 竹林 浩秀

2023年3月19日（日）に東北大学川内北キャンパスで開催されたアウトリーチ委員会について、ご報告いたします。おもな議事は以下の通りです。

1. バナー広告の掲載申し込みの審査について、手順と基準を確認した。
2. 学会ホームページ内の解剖学ひろば等記事の募集について、今後は、解剖学雑誌の記事の同時掲載も考えていくこととなった。査読については編集委員会で行うことが確認された。
3. その他、学会ホームページについては、以下のような提案があった。
 - ・英語による学術集会などに関する情報発信が少ないので、適宜アップデートを行う。
 - ・学会から外に向かって発信する情報は、ホームページ上の見つけやすい位置に置く。内容によっては、会員限定のページを作って載せることを検討する。
 - ・ホームページのアクセス解析などは、特定の委員のご負担が大きいため、若手委員会などでGoogle analytics を使ったことがある人を募集する。このような意見について、すぐに対応できるものについては対応し、検討が必要なものについては今後メール審議などを通じて検討していくこととなった。

以上

2023（令和5）年度学術委員会活動報告書

学術委員会
委員長 小田 賢幸

1. 第128回日本解剖学会総会・全国学術集会における学術委員会主催の他学会連携シンポジウムを、以下の内容で企画・開催した。

(a) 生理学会との連携シンポジウム

「オルガネラや細胞膜の特殊化した膜領域「ゾーン」研究の最前線」

オーガナイザー：原田彰宏 先生（大阪大学）、深田正紀（生理学研究所）

演者

甲賀大輔 先生（旭川医科大学、日本解剖学会）
中津 史 先生（新潟大学、日本解剖学会）
田村 康 先生（山形大学）
原田彰宏 先生（大阪大学、日本解剖学会）
深田優子 先生（生理学研究所、日本生理学会）

(b) 顕微鏡学会との連携シンポジウム

「人工知能が拓く新たな顕微鏡イメージング」

オーガナイザー：岡田康志 先生（東京大学）、窪田芳之 先生（生理学研究所）

演者

上田昌宏 先生（大阪大学、日本顕微鏡学会）
平林祐介 先生（東京大学）
窪田芳之 先生（生理学研究所、日本顕微鏡学会）
岡田康志 先生（東京大学、日本解剖学会、日本顕微鏡学会）
山本陽一朗 先生（理化学研究所）

2. 第129回日本解剖学会総会・全国学術集会における学術委員会主催の他学会連携シンポジウム案をメール会議で検討し、以下の内容で企画開催する予定である。

(a) 生理学会・薬理学会との連携シンポジウム

「慢性疼痛の多階層的基礎研究」

オーガナイザー：和氣弘明 先生（名古屋大学）、尾崎紀之 先生（金沢大学）

演者

竹田育子 先生（名古屋大学、日本解剖学会）
加塩麻紀子 先生（生理学研究所、日本生理学会）
奥田洋明 先生（金沢大学、日本解剖学会）
津田 誠 先生（九州大学、日本薬理学会）

(b) 顕微鏡学会との連携シンポジウム

「メカノバイオロジーの最先端」

オーガナイザー：長瀬美樹 先生（杏林大学）、城戸瑞穂 先生（佐賀大学）

演者

曾我部正博 先生（金沢工業大学）
柴田幹大 先生（金沢大学、日本顕微鏡学会）
加藤孝信 先生（東京大学）
城戸瑞穂 先生（佐賀大学、日本解剖学会、日本顕微鏡学会）
長瀬美樹 先生（杏林大学、日本解剖学会）

3. 第128回総会・全国学術集会で学術委員会により実施する総会・学術集会に関する参加者アンケート調査案をメール会議で作成し、アンケート調査を実施した。メールにより参加者に案内を送り、オンラインで入力された結果を集計して、関係者と共有した。

4. 第129回総会・全国学術集会で学術委員会により実施する総会・学術集会に関する参加者アンケート調査案をメール会議で作成し、オンラインでの入力と集計を予定している。

以上

2023（令和5）年度医療専門職教育委員会活動報告書

医療専門職教育委員会
委員長 黒岩 美枝

A. 2023年3月18日（土）に委員会を開催した。

（1）本委員会の目的の確認

「医科・歯科以外の医療職の解剖学教育について検討することを目的とする」
新人委員のために本委員会の目的を確認した。

（2）ワークショップ開催

第128回解剖学会総会・全国学術集会（2023年3月18日～20日 仙台市）において「医療専門職養成校（課程）における解剖学教育に関するワークショップ」を開催した。「演者に各医療専門職養成課程における解剖学教育の取り組みを紹介いただき、情報共有の機会とする。」を開催趣旨とした。

3月20日（月）9:00-10:50 B会場（C棟2F・C200）にて開催

オーガナイザー・座長

笹野 泰之 医療専門職教育委員会 前委員長（東北大学 大学院歯学研究科 教授）

金澤 寛明 医療専門職教育委員会 委員（トヨタ看護専門学校 校長）

演者

1. 看護養成課程における解剖学教育：金澤寛明（トヨタ看護専門学校）
2. 理学療法士養成校における解剖学教育の現状と未来に向けた課題：浦川将（広島大・医）
3. 薬剤師養成課程における解剖学教育：黒岩美枝（横浜薬大・薬）
4. 歯科衛生士養成課程における解剖学教育：吉田賀弥（徳島大・歯）

（3）各医療専門養成校（課程）の解剖学や学生の現状について

下記2点について、委員間で意見交換があった。

- ・各医療専門養成校（課程）における解剖学教育の現状
- ・テストに関する問題点

（4）次年度以降の計画

今回のワークショップ後の反響などにより、今回のワークショップの内容をさらに詳細に検討し、第130回の日本解剖学会において、ワークショップを行うことが検討された。
第129回解剖学会総会時の医療専門職教育委員会にて次年度のワークショップについて詳細を検討する。

B. メール会議

（1）【APPW2025】学会企画の合同開催について

大野理事より第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）において、各学会の委員会企画のシンポジウム等の企画の依頼があった。

現在、APPW2025プログラム委員長と委員間で内容などについて検討中。

以上

2023（令和5）年度倫理・利益相反委員会活動報告書

委員長 千田隆夫

委員 鈴木良地、伊藤正孝、秋田恵一、北田容章
柳井章江、稲井哲一朗

（１）解剖学研究者が関与するご遺体を用いた研究に関する、以下の3つのガイドラインについて意見交換した。

1. 「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」（日本外科学会、日本解剖学会）
2. 「解剖体を用いた研究についての考え方と実施に関するガイドライン」（日本解剖学会）
3. 「従来の解剖学教室における臨床解剖学教育・研究といわゆるガイドライン（臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン）における外科手術手技研修の相違点について」（日本解剖学会）

➤ 解剖学研究者はこれらのガイドラインに基づき、各研究計画の所属研究機関倫理委員会への申請の必要性を判断している。

（２）倫理審査の申請に関する解剖学会としてのガイドラインを作る必要があるかどうかについて意見交換した。

- 倫理審査申請に関するガイドライン作りには相当な困難が伴うとの認識で一致した。
- CSTおよび解剖体を用いた研究に関する倫理申請をどのように行っているかについて、全国解剖学教室にアンケートを実施することを検討した。

（３）「ご遺体を用いた人体構造に関する研究および手術手技研修に関する倫理審査等の手続きに関するアンケート」（全27問）を作成し、実施した。

- アンケートの主目的は以下の3点。
 1. ご遺体を用いた人体構造の研究の現状調査
 2. ご遺体を用いた手術手技研修の現状調査
 3. これらに関する倫理審査の現状調査とガイドライン化の必要性の検討
- アンケート期間：2023年9月1日～10月10日
- 医学部82校、歯学部29校の計111校より回答があった。
- 集計結果の“まとめ”を現在作成中。

以 上

2023（令和5）年度ダイバーシティ推進委員会活動報告書

ダイバーシティ推進委員会

委員長 和氣弘明

1. 第128回全国学術集会におけるランチョンセミナー

演者として城野理佳子氏（北海道大学 産学・地域協働推進機構）を招聘し、婚と姓変更にまつわる話題をメインテーマとし、その周辺事情も含め、男女研究者がキャリアを生き抜く上でのノウハウやヒントを共有するためのランチョンセミナーを開催した。

2. 男女共同参画学協会連絡会への参加

男女共同参画学協会連絡会運営委員会、社員総会に参加し、他学会における取組や課題について情報収集を行っている。また、大規模アンケート・加盟学協会の活動調査への協力、男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの学会紹介記事掲載を行った。

3. 今後の計画

1) 第129回全国学術集会

企画シンポジウム「解剖学におけるダイバーシティの取り組み」を開催する。

本シンポジウムでは視覚の多様性について取り上げる。まず盲学校の解剖教育に着目し、その教育のあり方・解剖における取り組みなどを紹介し、広くそのあり方を周知するとともに、皆様の多様性に対する理解を促したい。さらに色覚の多様性について議論し、解剖学教育への多様な対応や解剖学会の取り組みなどに活かしていきたい。また議論の時間を設けて、その取り組みに対する意見などを議論したい。

2) 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会（APPW2025）

3学会合同のシンポジウム企画を予定している

以上

2023（令和5）年度若手研究者の会 活動報告

若手研究者の会

運営委員 室生 暁、柏木 有太郎、服部 祐季、井原 大

2023年度の活動について：以下を行った

- ・第128回日本解剖学会総会・全国学術集会時に以下を開催
若手研究者の会 春の学校
若手や学生のキャリア上の不安や疑問に答えるシンポジウム（若手育成委員会との共催で開催）
ティータイム研究者交流会（若手育成委員会・ダイバーシティ推進委員会共催で開催）
プレミアムセミナー3～解剖学の魅力を語る
「シナプスを染めることの難しさと出会って・・・」
北海道大学大学院医学研究院解剖発生学教室 渡辺雅彦先生
- ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業 助成者1名
- ・教育・研究交流掲示板の運営

2024年度の活動について：以下を予定している。

- ・解剖学雑誌への活動報告掲載（毎号2ページ）
- ・人体解剖セミナーや人体解剖実習への参加費旅費支援事業（継続）
- ・教育・研究交流掲示板の運営（継続）
- ・第129回日本解剖学会総会・全国学術集会での企画
 - (1) 若手研修者の会総会
全国学術集会初日（3月21日 12:10-13:10）に実施する。
 - (2) 第3回ティータイム研究者交流会 ～Meet the Experts～
今年度も研究や教育、共同研究の希望、困っていること（育児と研究の両立、教育と研究のバランス）などの意見交換ができるよう、男女年齢不問、子連れ可の参加者同士の相互交流の機会を提供する。
 - (3) 若手研究者の会 春の学校
以下概要で実施する。
日時：3/20(水) 13:00～19:00
会場：ホテルコレクティブ
参加人数30人 発表15人 懇親会26人（いずれも2/8現在）
特別講演演者：永石 欽和 先生（札幌医大）※若手研究会者の会員である

以上

⑤研究の奨励及び業績の奨励

2023（令和5）年度日本解剖学会奨励賞受賞者

氏 名	申 請 課 題	該当分野	所 属
こいけ たろう 小池 太郎	末梢感覚神経系の機能実現・維持に関するグリア細胞の形態学的解析	組織学	関西医大・解剖学
ながい ひろたか 永井 裕崇	環境要因による脳組織恒常性破綻の微細組織学的機序解明	神経解剖学	神戸大・医・薬理学
よこた にいくらむつみ 横田(新倉)睦美	レポーターiPS細胞を用いた神経細胞サブタイプ特異的なミトコンドリアの機能・形態学的研究	細胞生物学	順天堂大・医・神経機能構造学

(五十音順)

2023（令和5）年度日本解剖学会認定技術者功労賞受賞者

氏 名	所 属
	該当者なし

(五十音順)

⑥内外学術団体との協力ならびに連絡

後 援	・第42回名古屋大学人体解剖トレーニングセミナー ・第13回形態科学シンポジウム
協 賛	・日本顕微鏡学会第79回学術講演会 ・3次元画像コンファレンス2023 ・第33回電顕サマースクール

(承諾順)

- 1) 生物科学学会連合、日本脳科学関連学会連合、及び、男女共同参画学協会連絡会における活動協力（意見交換、声明発表、機構強化について）
- 2) 基礎医学系学会（生理学会、薬理学会）、日本顕微鏡学会との意見交流、声明発表
- 3) 日本外科学会CST推進委員会における活動協力（委員派遣等）
- 4) 日本医学会、日本医学会連合における活動協力
- 5) KAA (The Korean Association of Anatomists) との学術交流
- 6) APICA (Asian Pacific International Congress of Anatomists)
第10回APICA開催(2023年)に向けての調整と協力
- 7) 欧米解剖学会との交流
アメリカ解剖学会とはAPICAの枠組みの中で行う。Anatomische Gesellschaftとの交流は継続

⑦技術者認定

1級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
ありむら かずと 有村 和人	愛知医大・解剖学	解剖
くぼ かずひろ 窪 和寛	福岡歯大・教育研究等支援係	解剖
なかだ たかゆき 中田 貴之	金沢医大・アナトミーセンター	解剖

2級技術者合格者

氏 名	所 属	種 別
こすぎ まさと 小杉 真登	日本歯大・新潟生命歯・解剖 1	解剖
あさの ふみこ 浅野 文子	名古屋大・医・機能組織学	解剖・細胞組織
ふくだ きょうすけ 福田 京祐	群馬大・医・機能形態学	解剖
おこれうちたかのり 尾之内高慶	藤田医大・オープンファシリティセンター	細胞組織
すやま まなみ 陶山 愛美	東北医薬大・解剖学	解剖・細胞組織
こさかい ゆう 小酒井 友	東北医薬大・解剖学	解剖・細胞組織
ひらた じゅん 平田 潤	山梨大・医・細胞生物学	解剖

(五十音順)

技術者累計	1級 (累計)	2級 (累計)
解剖技術者	3 (76)	6 (244)
細胞組織技術者	0 (8+※1) ※1：旧・組織30、旧特殊組織7	4 (30+※2) ※2：旧・組織171、旧・特殊組織66

5. 2023（令和5）年度決算および会計監査報告の件

決 算 報 告 書

（第11期）

自 2023（令和5）年 1月 1日

至 2023（令和5）年12月31日

一般社団法人日本解剖学会

東京都豊島区駒込 1 丁目 4 3 番 9 号

正味財産増減計算書

令和 5年 1月 1日から令和 5年12月31日まで

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	339	339	0
特定資産運用益	89	130	△ 41
名簿作成積立資産受取利息	3	11	△ 8
特別事業積立資産積立利息	86	119	△ 33
受取入会金	140,000	129,000	11,000
受取入会金	140,000	129,000	11,000
受取会費	19,738,165	19,773,335	△ 35,170
正会員受取会費	12,883,165	13,004,185	△ 121,020
代議員会員受取会費	3,587,000	3,663,000	△ 76,000
終身会員受取会費	1,440,000	1,200,000	240,000
学生会員受取会費	823,000	752,150	70,850
団体会員受取会費	525,000	594,000	△ 69,000
賛助会員受取会費	480,000	560,000	△ 80,000
事業収益	26,166,122	16,047,521	10,118,601
全国学術集会収益	22,186,712	13,191,021	8,995,691
支部学術集会収益	2,093,000	715,000	1,378,000
会誌等頒布収益	1,285,610	1,262,300	23,310
広告掲載料収益	514,800	838,200	△ 323,400
技術者審査・登録料収益	86,000	41,000	45,000
雑収益	697,779	263,218	434,561
受取利息	150	150	0
その他雑収益	697,629	263,068	434,561
経常収益計	46,742,494	36,213,543	10,528,951
(2) 経常費用			
事業費	42,045,672	35,108,463	6,937,209
全国学術集会	23,186,712	13,959,421	9,227,291
支部学術集会	2,733,086	1,141,582	1,591,504
会誌製作費	6,832,100	7,294,980	△ 462,880
会誌編集費	220,000	220,000	0
会誌発送費	1,430,294	1,220,441	209,853
奨励賞・功労賞関係費	159,945	208,315	△ 48,370
技術者認定業務費	80,460	44,280	36,180
学術会議関連シンポジウム費	100,000	0	100,000
委員会運営費	671,745	578,698	93,047
日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
生物化学学会連合会費	50,000	50,000	0
男女共同参画学協会連合会費	15,000	15,000	0
脳科学関連学会連合会費	60,000	60,000	0
日本医学会連合会費	134,400	138,300	△ 3,900
名簿製作費	0	3,971,592	△ 3,971,592
若手研究者の会運営費	170,478	46,449	124,029
ホームページ運営費	435,600	594,000	△ 158,400
会議費	480,731	100,080	380,651
旅費交通費	316,684	176,093	140,591
印刷費	756,671	653,611	103,060

通信費	3,564	497,279	△ 493,715
事務委託費	3,798,702	3,790,842	7,860
諸謝金	247,500	247,500	0
若手育成支援	62,000	0	62,000
管理費	3,514,592	2,201,633	1,312,959
ホームページ運営費	48,400	66,000	△ 17,600
会議費	1,350,390	716,093	634,297
旅費交通費	23,399	2,032	21,367
印刷費	84,075	72,623	11,452
通信費	567,163	55,253	511,910
事務委託費	690,832	513,393	177,439
諸謝金	69,850	55,550	14,300
支払報酬	462,000	462,000	0
支払手数料	42,245	121,943	△ 79,698
渉外費	22,000	0	22,000
租税公課	80,000	80,000	0
雑費	74,238	56,746	17,492
経常費用計	45,560,264	37,310,096	8,250,168
評価損益等調整前当期経常増減額	1,182,230	△ 1,096,553	2,278,783
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,182,230	△ 1,096,553	2,278,783
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度収益	0	100,000	△ 100,000
経常外収益計	0	100,000	△ 100,000
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	100,000	△ 100,000
当期一般正味財産増減額	1,182,230	△ 996,553	2,278,783
一般正味財産期首残高	93,595,119	94,591,672	△ 996,553
一般正味財産期末残高	94,777,349	93,595,119	1,182,230
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	94,777,349	93,595,119	1,182,230

貸借対照表

令和 5年12月31日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	47,190,306	58,279,198	△ 11,088,892
未収金	12,000	35,740	△ 23,740
貯蔵品	463,909	544,324	△ 80,415
前払費用	1,022,550	1,340,615	△ 318,065
流動資産合計	48,688,765	60,199,877	△ 11,511,112
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
名簿作成積立資産	495,359	295,356	200,003
特定事業積立資産	26,683,333	14,007,278	12,676,055
特定資産合計	27,178,692	14,302,634	12,876,058
固定資産合計	47,178,692	34,302,634	12,876,058
資産合計	95,867,457	94,502,511	1,364,946
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	151,608	155,892	△ 4,284
前受金	876,000	689,000	187,000
未払法人税等	52,500	52,500	0
流動負債合計	1,080,108	897,392	182,716
2. 固定負債			
長期前受金	10,000	10,000	0
固定負債合計	10,000	10,000	0
負債合計	1,090,108	907,392	182,716
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	94,777,349	93,595,119	1,182,230
(うち特定資産への充当額)	20,000,000	20,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	27,178,692	14,302,634	12,876,058
正味財産合計	94,777,349	93,595,119	1,182,230
負債及び正味財産合計	95,867,457	94,502,511	1,364,946

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000			20,000,000
小 計	20,000,000			20,000,000
特定資産				
名簿作成積立資産	295,356	200,003		495,359
特別事業積立資産	14,007,278	12,912,097	236,042	26,683,333
小 計	14,302,634	13,112,100	236,042	27,178,692
合 計	34,302,634	13,112,100	236,042	47,178,692

(表示方法の変更)

従来、「流動資産」の「現金預金」に計上していた「ゆうちょ銀行振替口座」は、金額的重要性を鑑みて、当年度より「固定資産」の「特定資産（特別事業積立資産）」として表示することとした。この結果を「基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」において、「特定資産（特別事業積立資産）」の「当期増加額」に12,912,097円を反映している。なお、この変更による当期正味財産増減計算書における当期経常正味財産増減額への影響はない。

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000		(20,000,000)	
小 計	20,000,000		(20,000,000)	
特定資産				
名簿作成積立資産	495,359		(495,359)	
特別事業積立資産	26,683,333		(26,683,333)	
小 計	27,178,692		(27,178,692)	
合 計	47,178,692		(47,178,692)	

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記2. に記載しているため省略する。

財産目録

令和 5年12月31日現在

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	預金	普通預金	三井住友銀行本店営業部№4616526 三菱UFJ銀行駒込支店№1178366 三菱UFJ銀行駒込支店№0511130 ゆうちょ銀行振替口座00160-6-78262 認定二級技術者登録料2名分 奨励賞・功労賞メダル 第129回総会全国学術集会 一般財団法人口腔保健協会	47,190,306 1,532,020 16,153,984 776,461 28,727,841 12,000 463,909 1,022,550 1,000,000 22,550
	未収金 貯蔵品 前払費用			
流動資産合計				48,688,765
(固定資産) 基本財産	定期預金	定期預金	三井住友信託銀行本店営業部№96426950-01	20,000,000 20,000,000
特定資産	名簿作成 積立資産 特定事業 積立資産	普通預金	三菱UFJ銀行駒込支店№0066656	495,359 26,683,333
		普通預金	三菱UFJ銀行駒込支店№0100293	13,835,742
		普通預金	ゆうちょ銀行振替口座00170-6-73195	12,847,591
固定資産合計				47,178,692
資産合計				95,867,457
(流動負債)	未払金		一般財団法人口腔保健協会 その他諸口	151,608 76,258 75,350
	前受金 未払法人税等		令和6年度入会金、会費 法人都民税均等割	876,000 52,500
流動負債合計				1,080,108
(固定負債)	長期前受金		令和7年度会費	10,000
固定負債合計				10,000
負債合計				1,090,108
正味財産				94,777,349

監 査 報 告 書

一般社団法人日本解剖学会

理事長 寺田 純雄 殿

一般社団法人日本解剖学会

監事 八木沼洋行 ⑩

監事 渡辺 雅彦 ⑩

私たちは、一般社団法人日本解剖学会の2023（令和5）年1月1日から2023（令和5）年12月31日までの第11期事業年度における会計及び業務の実施状況の監査を行いました結果、次のとおり報告致します。

1. 監査方法の概要

- (1) 各監事は、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を実施し、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書、ならびに財産目録の正確性を検討しました。
- (2) 各監事は、理事会等の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、必要に応じて説明を求め、関係書類の閲覧、その他必要と思われる監査手続を実施し、理事の業務遂行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告の内容は真実であることを認めます。
- (2) 計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書、ならびに財産目録は、法人の財政及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の職務執行に関して、不正行為または法令、もしくは定款に違反する重大な事実はありません。

以上

2024年2月1日

一般社団法人日本解剖学会
理事会 御中

公認会計士高岸事務所
公認会計士 高岸 圭^④

<財務諸表等監査>

監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第22条に基づき、2023年1月1日から2023年12月31日までの第11事業年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドライン1-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、

意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。

- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、一般社団法人日本解剖学会定款第22条の規定に基づき、2023年12月31日現在の第11事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

6. 2024（令和6）年度予算および事業計画の件

一般社団法人日本解剖学会 2024（令和6）年度事業計画(案)

事業	2024（令和6）年度（2024（令和6）年1月1日～12月31日）
学術集会の開催	本部 1回 第129回全国学術集会 会期：2024（令和6）年3月21日～23日 会場：那覇文化芸術劇場なは一と、ホテルコレクティブ 支部 6回 第70回東北・北海道連合支部学術集会 第112回関東支部学術集会 第84回中部支部学術集会 第100回近畿支部学術集会 第78回中国四国支部学術集会 第80回九州支部学術集会
学術誌等の刊行	英文誌「Anatomical Science International」刊行 年4回 和文誌「解剖学雑誌」刊行 年2回
研究の奨励及び業績の表彰	奨励賞の選考、表彰 認定技術者功労賞の表彰
研究活動	解剖学用語の検討 各種懇談会・研究会の開催
認定技術者の審査	認定一級技術者認定試験 2024（令和6）年9月実施予定 認定二級技術者審査 認定審査は随時実施
各種会合	定時社員総会：3月 常務理事会：年5回（予定） 理事会：年3～5回（予定） 各種委員会：総会・全国学術集会時 その他随時
広報活動	学会ホームページの拡充、ならびにアウトリーチ活動
国際会議関係	APICAへの協力 諸外国の解剖関連学会（AG, KAAなど）との相互交流
その他	他学会（日本生理学会、日本顕微鏡学会）との連携（学術集会開催、学術誌の刊行など）の推進

収支予算書

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

一般社団法人日本解剖学会

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,000	1,000	0
特定資産運用益	200	200	0
名簿作成積立資産受取利息	100	100	0
特別事業積立資産積立利息	100	100	0
受取入会金	100,000	150,000	△ 50,000
受取入会金	100,000	150,000	△ 50,000
受取会費	19,562,000	19,598,000	△ 36,000
正会員受取会費	13,500,000	13,500,000	0
代議員会員受取会費	3,700,000	3,700,000	0
終身会員受取会費	720,000	720,000	0
学生会員受取会費	702,000	594,000	108,000
団体会員受取会費	540,000	564,000	△ 24,000
賛助会員受取会費	400,000	520,000	△ 120,000
事業収益	26,283,000	27,759,000	△ 1,476,000
全国学術集会収益	21,012,000	22,470,000	△ 1,458,000
支部学術集会収益	3,400,000	3,400,000	0
会誌等頒布収益	1,276,000	1,254,000	22,000
広告掲載料収益	554,000	594,000	△ 40,000
技術者審査・登録料収益	41,000	41,000	0
受取寄付金	0	20,000	△ 20,000
雑収益	158,000	158,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
その他雑収益	157,000	157,000	0
経常収益計	46,104,200	47,686,200	△ 1,582,000
(2) 経常費用			
事業費	45,121,900	46,331,400	△ 1,209,500
全国学術集会	22,512,000	23,970,000	△ 1,458,000
支部学術集会	4,100,000	4,100,000	0
会誌製作・編集費	7,020,000	6,800,000	220,000
会誌編集費	0	220,000	△ 220,000
会誌発送費	1,200,000	1,200,000	0
奨励賞・功労賞関係費	281,000	181,000	100,000
技術者認定業務費	136,000	136,000	0
学術会議関連シンポジウム費	100,000	100,000	0
委員会運営費	1,600,000	1,350,000	250,000
日本篤志献体協会	100,000	100,000	0
生物化学学会連合会費	50,000	50,000	0
男女共同参画学協会連合会費	15,000	15,000	0
脳科学関連学会連合会費	60,000	60,000	0
日本医学会連合会費	135,000	140,000	△ 5,000
若手研究者の会運営費	500,000	500,000	0
ホームページ運営費	594,000	594,000	0
会議費	0	0	0
旅費交通費	436,000	456,000	△ 20,000

印刷費	666,000	666,000	0
通信費	540,000	540,000	0
事務委託費	3,929,400	4,005,900	△ 76,500
諸謝金	247,500	247,500	0
若手育成支援	500,000	500,000	0
国際交流関係費	400,000	400,000	0
管理費	2,533,100	3,261,600	△ 728,500
ホームページ運営費	66,000	66,000	0
会議費	1,200,000	1,920,000	△ 720,000
旅費交通費	0	0	0
印刷費	74,000	74,000	0
通信費	60,000	60,000	0
事務委託費	436,600	445,100	△ 8,500
諸謝金	526,500	526,500	0
租税公課	70,000	70,000	0
雑費	100,000	100,000	0
経常費用計	47,655,000	49,593,000	△ 1,938,000
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,550,800	△ 1,906,800	356,000
当期経常増減額	△ 1,550,800	△ 1,906,800	356,000
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,550,800	△ 1,906,800	356,000
一般正味財産期首残高	94,777,349	93,595,119	1,182,230
一般正味財産期末残高	93,226,549	91,688,319	1,538,230
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	93,226,549	91,688,319	1,538,230

7. 2025（令和7）年度予算執行の件

2025（令和7）年1月～3月（定時社員総会開催まで）の予算執行を理事会にて決定する。

8. 第132回（2027（令和9）年度）総会・全国学術集会開催担当校の件

第132回総会・全国学術集会担当校に岡山大学、会頭に組織細胞学分野の大内淑代先生を推薦したい。

9. 役員選出会則の一部改正について

第8条の時限特別措置についても男女共同参画推進の見地から3期6年間、期間延長することを提案したい

一般社団法人日本解剖学会 役員選出細則（改正案）

（目的）

第1条 本細則は、一般社団法人日本解剖学会（以下「本会」という。）定款第19条に基づき、役員の選出に関し、必要な事項を定めるものである。

（理事及び監事の選出）

第2条 理事は、支部ごとに、その支部に所属する代議員の互選により選出し、社員総会の承認を得るものとする。

（1）理事は、北海道支部1名、東北支部1名、関東支部5名、中部支部3名、近畿支部3名、中国・四国支部2名、九州支部2名とする。

（2）理事が所属する支部を変更したときは、定款第19条4項のとおりとする。

第3条 監事は、代議員の互選により選出し、社員総会の承認を得るものとする。

（理事及び監事の選出方法）

第4条 理事及び監事の選出は、無記名投票による。

（1）選挙は、役員の任期満了の30日前までに行わなければならない。

（2）理事は、支部ごとに、定数内の連記投票による。

（3）監事は、支部を問わずに、2名連記投票による。

（4）理事と監事の選挙を同時に行うときは、まず理事を決定し、次に監事を決定する。

（5）投票数が同数の者の中から当選者を決定する場合には、年長の者を優先する。生年月日も同一の場合は、会員歴が古い者を優先する。

（6）役員の再任は妨げない。ただし、同一職連続3期を越えることはできない。

（役員の欠員）

第5条 理事及び監事に欠員を生じたときは、次点者を繰り上げ当選とする。ただし、その任期は前任者の残任期間とする。常務理事に欠員が生じた場合には、理事の欠員を補充したのち互選により再選出する。ただし、常務理事の残任期間が短い場合には他の常務理事が職務を兼務することを妨げない。

（選挙管理委員会の設置）

第6条 役員選出のため、選挙管理委員会を置く。委員会構成等については委員会設置規程第2条に定める。

（改廃）

第7条 本細則の改廃は、社員総会の決議により行い、会員に報告する。

（時限特別措置）

第8条 第2条（1）による理事選出の結果、理事における男女共同参画の観点から必要と判断された場合には、定款第18条の規定数を充足する数を上限として、新理事長は追加の理事を定時社員総会に追加推薦することが出来る。推薦にあたっては、第2条（1）による理事選出結果を考慮するものとする。なお、この措置は平成30年度定時社員総会終結時までの時限特別措置とする。

附 則

1. 本細則は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（整備法）第121条1項において読み替えて準用する同法第106条第1項に定める一般社団法人設立の登記の日から施行する。

2. 本細則は、平成25年3月29日より施行する。

3. 本細則は、平成26年3月28日より施行する。

4. 本細則は、平成31年3月27日より施行する。第8条で定める時限特別措置は平成36年度定時社員総会終結時まで延長するものとする。

5. 本細則は、令和6年3月22日より施行する。第8条で定める時限特別措置は令和12年度定時社員総会終結時まで延長するものとする。

V. 第130回（2025（令和7）年度）日本解剖学会総会・全国学術集会準備状況

閉会の辞